【学力向上フロンティアスクール中間報告書】（小学校用）

都道府県名	愛媛県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	八幡浜市立白浜小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	２	２	２	１４	２３
児童数	５４	４３	５１	５６	４３	４５	４	２９６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

確かな学力を身に付け、主体的に取り組む児童の育成
～算数科における指導法の工夫を通して～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

全学年、算数（興味・関心・意欲・学力面で個人差が大きい教科であるため）

(2)　年次ごとの計画

平成14年度	１　テーマ 確かな学力を身に付け、主体的に取り組む児童の育成 ～算数科における指導法の工夫を通して～ ２　仮説 （1）児童の実態把握に努め、評価を生かした指導の工夫を行うことにより、意欲的に取り組み、確かな学力を身に付けた児童が育つであろう。 （2）学びの機会の充実を図るとともに、教材の工夫・開発に努めることにより、学ぶ喜びを味わい、主体的に学習に取り組もうとする児童が育つであろう。 （3）啓発活動や学習環境の整備・充実に努めることにより、学ぶ習慣を身に付け、何事にも興味・関心をもって、生き生きと活動する児童が育つであろう。 ３　研究内容・方法 （1）教材の工夫・開発 ア　「まなびタイム」の活用と学習資料の工夫・改善 イ　学習意欲を喚起する教材の工夫・開発 （2）指導法の工夫 ア　学力の実態把握と指導の重点化、基礎・基本の徹底 イ　児童の主体的なかかわりを重視した学習展開と指導法の工夫 （3）指導に生きる評価の工夫 ア　多様な評価方法の工夫 イ　評価を生かした支援の工夫 （4）学びの習慣化 ア　保護者への啓発と家庭学習の習慣付け イ　学習環境の整備

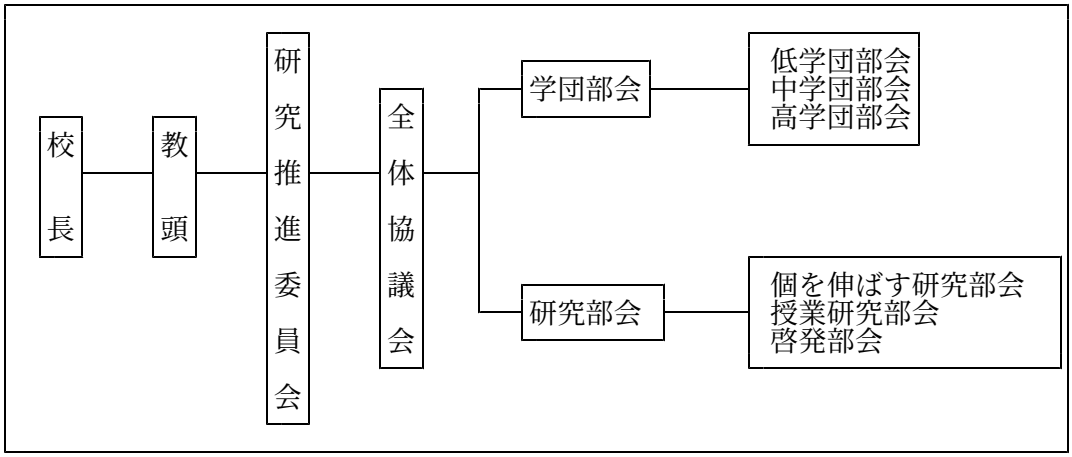
	１　テーマ 確かな学力を身に付け、主体的に取り組む児童の育成 ～算数科における指導法の工夫を通して～

平成15年度	2　仮説 （1）　児童の実態把握に努め、学習形態・評価を工夫し、個に応じた指導を行うことにより、確かな学力を身に付けた児童が育つであろう。 ＜個を伸ばす研究部会＞ （2）　教材の工夫・開発に努め、算数的活動の充実を図った学習活動を行うことにより、学ぶ喜びを味わい、主体的に取り組もうとする児童が育つであろう。＜授業研究部会＞ （3）　啓発活動や学習環境の整備・充実に努めることにより、学ぶ習慣が身に付き、何事にも興味・関心をもって生き生きと活動する児童が育つであろう。＜啓発部会＞ 3　研究の内容・方法 （1）　個を伸ばす研究部会 ア　実態把握　（意識調査・学力テストの分析・個のつまずきチェック） イ　「まなびタイム」の充実 ウ　学習形態の工夫（少人数指導の体制の確立・ねらいに応じた学習形態） エ　評価研究（Ｔ・Ｔ指導、少人数指導における評価） （2）　授業研究部会 ア　学習における基礎・基本の徹底 イ　教材の工夫開発 （3）　啓発部会 ア　「フロンティア新聞」の発行 イ　学習形態の保護者への説明 ウ　保護者対象の授業公開 エ　「家庭学習がんばり表」の活用 オ　「算数コーナー」の設置 ＊　昨年度の研究の課題として、効果的な評価方法や習熟度別の指導の充実が残り、より個の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図っていく必要があった。そのために、今年度より少人数指導の学習を取り入れた。指導体制や指導方法の研究を進める必要があったので、研究内容を変更した。

平成16年度	1　テーマ 確かな学力を身に付け、主体的に取り組む児童の育成 ～算数科における指導法の工夫を通して～ 2　仮説 （1）　児童の実態把握に努め、学習形態・評価を工夫し、個に応じた指導を行うことにより、確かな学力を身に付けた児童が育つであろう。 ＜個を伸ばす研究部会＞ （2）　教材の工夫・開発に努め、算数的活動の充実を図った学習活動を行うことにより、学ぶ喜びを味わい、主体的に取り組もうとする児童が育つであろう。＜授業研究部会＞ （3）　啓発活動や学習環境の整備・充実に努めることにより、学ぶ習慣が身に付き、何事にも興味・関心をもって生き生きと活動する児童が育つであろう。＜啓発部会＞ 3　研究の内容・方法 （1）　個を伸ばす研究部会 ア　実態把握　（意識調査・学力テストの分析・個のつまずきチェック） イ　「まなびタイム」の充実 ウ　学習形態の工夫（少人数指導の体制の充実・ねらいに応じた学習形態の工夫・改善） エ　評価研究（Ｔ・Ｔ指導、少人数指導における評価） （2）　授業研究部会 ア　学習における基礎・基本の徹底 イ　教材の工夫開発 ウ　表現力の育成 （3）　啓発部会 ア　「フロンティア新聞」の発行 イ　学習形態の保護者への説明

ウ　保護者対象の授業公開
エ　「家庭学習がんばり表」の活用
オ　「算数コーナー」の設置

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

（１）　仮説（1）について

少人数指導において、まず、学習内容により、どのような学力を児童に身に付けさせたいかを明確にした。その学力を身に付けさせるためには、どのような少人数指導の形態で取り組めば学習効果が上がるか、また、支援に生かす評価の積み上げはどのようにすればよいか、教師間で十分話し合いを持って計画的に学習を進めていった。それにより、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導が実践でき成果が上がった。昨年度に比べ、学習後の単元テストで全体的に理解度が向上し、「算数がとても好き・好き」と答えた児童が 10 %程度増えている。文章題を解くことや、解き方の説明に対する苦手意識を持った児童も、各学年少しずつ減ってきている。

（２）　仮説（2）について

ノートのまとめ方や発表の仕方など、学習における基礎・基本の徹底を図ることで、児童の学ぼうとする姿勢が育ってきた。問題解決学習において、自分の考えを発表することが苦手だった児童も、少しずつ考えを述べることができ始めた。また、昨年度以上に教材を工夫・開発し、積極的に算数的活動を取り入れることで、楽しい授業、わかる授業が実践でき始めた。

（３）　仮説（3）について

「フロンティア新聞」や少人数指導の公開授業を通して、保護者への啓発活動を進めることで、本校が進めている算数科の研究の取組に対する理解が深まり、興味・関心を示す保護者が増えてきた。

今年度は、学校からの一方的な発信ではなく、保護者から返ってくる意見を大切にすることで、さらに連携が図れるようになった。

家庭学習の大切さを伝えることで、今まで無関心だった保護者も家庭学習に目を通してくれるようになった。毎日の家庭学習の積み上げは、児童一人一人の学力へと確実に結びついていることを感じている。

２．今後の課題

（１）　仮説（1）について

指導体制が整い、少人数指導のよさを生かすことができ始めているが、より効果が上がるように研究を積み重ねていく必要がある。特に数学的な考え方の育成という点では、まだまだ課題が大きいので、来年度は、より研究を深めていきたい。また、少人数指導を行っていくための日々の教師間の情報交換等の時間を能率よく確保し、効果的な指導へとつなげていきたい。

（２）　仮説（2）について
　習熟度別少人数指導において、来年度は、さらに習熟の程度に応じた教材・教具の開発を進めていく必要がある。
　数学的な考え方の育成を図っているが、それを表現していく力は、算数科だけでは育たない。他教科との関連を図っていきたい。

（３）　仮説（3）について
　保護者の願いを大切にしながら啓発活動の充実を図りたい。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

教研式標準学力検査（ＣＲＴ）の実施　２月実施

確認テスト（各学期に１回）
　数と計算領域にかぎり、全学年の内容の確認テストを作成して実施。どの学年のどの内容でつまずいているかをチェックして、個人カードに記入。つまずきが見られる児童は、「まなびタイム」において、そこまでさかのぼって基礎・基本の定着を図る。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催実績（日時、場所、対象、会の目的等）

１　平成１５年６月２０日（金）　場所　八幡浜市立千丈小学校
○　対　　象　　地区協議会委員・管内小中学校の教職員
○　会の目的　　基礎・基本が確実に定着し、自ら学び自ら考える力を身に付けた児童・生徒の育成における研究成果の普及
２　平成１５年８月５日（火）、場所　愛媛県歴史博物館
○　対　　象　　八幡浜・宇和島管内地区フロンティアティーチャー
○　会の目的　　きめ細かな指導に関する実践について情報交換する中で、研究の方向性を話し合い、リーダーとしての　資質を高める。
３　平成１５年１１月１７日（月）　場所　大洲市立大洲南中学校
○　対　　象　　地区協議会委員・管内小中学校の教職員
○　会の目的　　基礎・基本が確実に定着し、自ら学び自ら考える力を身に付けた児童・生徒の育成における研究成果の普及
４　平成１６年１月１９日（月）　場所　八幡浜市役所
○　対　　象　　地区協議会委員
○　会の目的　　児童・生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導に関する実践研究を推進する核となるフロンティアスクールの研究成果を域内のすべての小・中学校に普及

研究会、説明会の開催予定（日時、場所、対象、会の目的等）

１　平成１６年１学期　　場所　　大洲市立久米小学校
○　対　　象　　地区協議会委員・管内小中学校の教職員
○　会の目的　　基礎・基本が確実に定着し、自ら学び自ら考える力を身に付けた児童・生徒の育成における研究成果の普及
２　平成１６年２学期　　場所　　大洲市立大洲小学校
○　対　　象　　地区協議会委員・管内小中学校の教職員
○　会の目的　　基礎・基本が確実に定着し、自ら学び自ら考える力を身に付けた児童・生徒の育成における研究成果の普及
３　平成１７年３学期　　場所　　八幡浜地方局
○　対　　象　　地区協議会委員
○　会の目的　　児童・生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導に関する実践研究を推進する核となるフロンティアスクールの研究成果を域内のすべての小・中学校に普及

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□ １５年度からの新規校　☒ １４年度からの継続校

【学校規模】　□ ６学級以下　□ ７～１２学級
☒ １３～１８学級　□ １９～２４学級
□ ２５学級以上

【指導体制】　☒ 少人数指導　☒ Ｔ．Ｔによる指導
□ 一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　□ 国語　□ 社会　☒ 算数　□ 理科
□ 生活　□ 音楽　□ 図画工作　□ 家庭
□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☒ 有　□ 無